

東西四大學
合唱音樂會

Yoshihara

早稲田大學音樂協會グリークラブ

慶應義塾ワグネルソサイエティー

同志社グリークラブ

關西學院グリークラブ

第三回東西四大學

合唱交歓音楽会

御 挨 拶

秋の香薫る本日ここに恒例の東西四大学合唱音楽会を開催いたすことが出来、多数の合唱愛好の皆様にご来賓を賜わり誠に光榮に存じております。

一昨年九月に呱呱の声をあげてよりはや三年の歳月が流れ各大学共それぞれの感慨をもつて卒業生を送り、新入生を迎え入れましたがその間にあつても常に變ることなき誠意と情熱を以つて自己の技術をみがき相互の向上を目指してまいりました。

一切の独善を排して今ここに平和の歌声に結ばれてあることを無上のよろこびと感じております。東西の四大学各校のもつ精神的乃至は技術的なパーソナリティをそれぞれの伝統と共に充分に表現しつつ、その対比の中に、歌に集う者達の共通の場を発見しようとする意欲を更に意義あらしめて、今後共益々この音楽会を盛大にいたしたいと考えております。

この若い者達の素朴な念願が長くその歌声とともに文化の一端を飾ることの出来ますよう皆様の厚き御支援御鞭撻をお願い申し上げます。

終りにこの音楽会に一方ならぬ御尽力を賜りました各校諸先輩方並びに吉原治良画伯に深く感謝を致す次第でございます。

東西四大学合唱連盟

早稲田大學音楽協会グリー・クラブ
慶應義塾ワグネル・ソサイエティー
同志社グリー・クラブ
關西學院大學グリー・クラブ

1954年9月18日(土) 京都同志社榮光館

1954年9月19日(日) 大阪産經会館

GREETING

早稲田大學總長

島田孝一

東西四大学交歓演奏会は、本年その第三回を開催することになった。

日本に於ける合唱音楽は戦後次第に隆盛の一路を辿つたのであるが、その陰には関東及び関西に於ける四大学の演奏会が、かなり大きな推進力になつたのは疑を容れないところである。本年もまたこれらの四大学の学生諸君が一堂に会して演奏会を開くに至つたことはよろこばしい次第である。この催を通じて各大学並びに学生諸君相互間の関係が一層親密の度を加えるに至るならば、これにまさるよろこびはないのである。

慶應義塾長

潮田江次

東西四大学の合唱交歓音楽会も本年は第三回となり、いよいよ盛大に催されることになりましたことは、詢に喜ばしいことと存じます。音楽の美しさは、人間の魂を浄化し敬虔で豊かな心情へ導くのに大きな要素をなすものであり、人間性の発展途上において欠くことのできないものであると信じます。もとより一口に音楽と申せば、中には動もすれば唯いたずらに喧嘩を極め、或は卑俗に墮して、軽佻浮薄に流れ易いものもあることで、それらは却つて人間の情操を蝕む憂いさえないとは申せません。

この点どうか学生諸君は高い矜持と優れた感覚をもつて、正しい音楽の発展に寄与すると共に、それを通じて学生諸君相互の融和をはかることに意を用いられるよう、この機会に切望してやまない次第であります。

同志社大學總長

大塚節治

同志社創立者新島襄先生の言葉によれば、私学存立の意義は、国民教育に対する国民の自主的貢献の実を究うし「独自一己の気象を発揮し、自治自立の人民を養成」するにあります。

吾国に於ける私学も此の使命達成のため永年努力を重ね、更に近來は私立大学連盟を結んで友誼を厚くし、加えて私学発展に資して参りましたが、今日早稲田、慶應義塾、関西学院、同志社の東西四大学合唱演奏会が開催され、お互いにその技を通じて交誼を重ねるのみならず、相提携して共同の目的に向い、社会に呼びかけることは極めて有意義のことと存じます。

戦後の大衆を風靡する音楽のうちには、私共の是認し難いものがないではありません。此の際、諸君の音楽が健康にして正しいものを大衆に示し、大衆の音楽に大なる光明をかゝげんことを切に祈ります。

関西學院理事長

今田 恵

われら四大学の合唱音楽会も既に回を重ねること三回、今年も、東都より私学の二雄と、関西における僚友同志社の、親愛なる合唱団の部員諸君とともに本大会を開く運びになつたことは、私の最大の喜びであり、衷心歓迎の意を表わす。

この大会は、最早や単に四大学の行事であるばかりでなく、一般社会のものとなつた。世の人々は、楽しんで此の時を待ちその成果に多大の期待を寄せるようになつた。

今年も十分その期待に添いうるであろうと考え、切にその成功を祈る。

若人の清き心と高き望みが、美しき歌声と共に、大空高く上り、地上に妙な借調を生むこの会場の雰囲気、そのまゝ明日の世界への希望と力となることを望む。

関西合唱連盟委員長

長井 齊

今年も四大学合唱の聴かれるのは嬉しいことである。合唱熱は日に月に昂まつては行くが、音楽として、はたして向上しているであろうかと、考えることがしばしばである。

職業的な合唱団もあるとは云え、合唱は大体アマチュアのものである。と云つて何も低い所に標準を置くことはない。ドン・コサツクにしても、デポーアにしても、もとは素人である。我が国に於ける合唱は、学生の音楽でなければ、その延長である。云い換えれば学生がリードして居るのであるから、学生音楽の位相は高い筈である。この演奏会によつて、東都より迎えた早慶両大学の合唱と共に、全日本的な水準を更に新しく盛り上げられることを強く希望するものである。

日本合唱音楽に関しては、未だその基準的な演奏と云つたものを聴いていない。ドイツ風な、フランス風な、ロシア風なものに対して、日本風な演奏と云つたものは、尙將來に期待しなければならない。それには、技術的な、生理的な、或は国語の標準語法等多くの条件を伴うことであるが、それらに向つての研究が、四つの可成異つた性格と、しかも横への連りを兼ね備えたこのグループによつて推し進められるであろうことを確信する。

遙々御來演の諸兄に深甚の敬意を表し、敏びの言葉としたい。

PROGRAMME

エー ル 交 歓

第 一 部

- I 同志社グリー・クラブ 指揮 渋谷 昭彦
Sacred Music
a. O Sacrum Convivium Lura. F. Heckenlively
b. Blessed is he that readeth C. S. Colburn
c. 主の祈り D. S. Bortiansky
- II 早稲田大学音楽協会グリー・クラブ 指揮 磯部 俊
Negro Spirituals
a. Ezekiel Saw de Wheel
b. O'Arks a-Moverin
c. Let' my people go
- III 関西学院大学グリー・クラブ 指揮 洲 脇 光 一
日本合唱曲集
a. 山の便り 下 総 皖 一
b. 百合は咲いてる //
c. タヤけの歌 山 田 耕 筈
- III 慶應義塾ワグネル・ソサイエティー 指揮 佐々木 通正
ロシア民謡集
a. ステンカ・ラーズイン
b. 緋色のサラフアン
c. カチューシャ
d. コサツクの子守唄

休 憩

第 二 部

- V 早稲田大学グリー・クラブ 指揮 磯部 俊
日本合唱曲集
a. 水夫のうた 藤 井 清 水
b. ふるさと 磯 部 俊
c. 河童と蛙 清 水 脩
- VI 同志社グリー・クラブ 指揮 渋谷 昭彦
一般曲
a. Let us break bread together Negro Spiritual
b. Die Beredsamkeit Joseph Haydn
c. To Joy K. Greger
- VII 慶應義塾ワグネル・ソサイエティー 指揮 佐々木 通正
a. De Sandman Protheroe
b. Erie Canal Negro Spiritual
c. High Barbary Arthur Hall 編曲
d. From Boston Harbor M. Barthomew 編曲
e. I've got Six Pence Negro Spiritual
- VIII 関西学院大学グリー・クラブ 指揮 洲 脇 光 一
Negro Spirituals 伴奏 辻 智 美
a. Honor! Honor!
b. Little Innocent Lamb
c. I'm goin' home
d. See dat babe in da lowly manger

合 同 演 奏

指揮 関西合唱連盟委員長 長井 齊 先生

1. Zum Gloria シューベル
2. Zum Sanctus シューベル
3. 秋のピエロ 清 水 脩

註：京都公演は第二部 早 関 慶 同 の順序で演奏致します。

早稲田大学グリー・クラブ

つまびらかでないが早稲田大学グリー・クラブはかなり古くからあつたようで、大正の中頃、すでにその記録が音楽史上に見られている。戦前もずっとコンクール、その他に活躍し、戦後は新たに結成された早稲田大学音楽協会所属の合唱団として復活し、第一回関東合唱コンクール、大学の部に優勝し、以後毎年演奏会、放送等に活躍し、コンクールに於いては二位以下に下つたことなく、殊に第四回全日本合唱コンクール学生の部に於いて優勝を遂げた。此の年、関西学院大学グリー・クラブと非公式で交歓演奏会を開き、これが契機となつて以後毎年交歓会、演奏会を開いている。

曲 目 解 説

◎ 邦 人 作 品

私達は泰西の名曲に接すると同時に我々の民族感情から奔り出た日本人の作品を心から求めています。その数少ない邦人作品から……。

水 夫 の う た

月の出潮のしづけさよ、海に生き海に死ぬる水夫達の悲しみの歌。秋の夜、破れた舟べりで吹く渺々たる笛の音、我れらが水の墓もかすかに腫をひらく。

ふ る さ と

いかに懐かしくとも、もはや再び帰ることのない土地ふるさとへの追憶と思慕の中に暖い灯をともし乍ら、しかも帰つて行くことのない望郷の哀傷。

河 童 と 蛙

大河童沼のぐるりの山は息をのみ、足だの手だのふりまわし、ひとしきり河童の歌声。あとはたゞぼえわたる月の光。幻想的な大河童沼の状景。

◎ Negro Spirituals

白人の圧迫に宿命的な暗さと悲しさを背負う黒人たちは、現実の厳しさの中に唯キリストと結ばれてあることのみよるこびを得ようとする。

魂の底からの叫び声の自づから備えた音楽性、本当の美しさそういうものでいつも私達の魂の深奥に迫ってくる黒人霊歌から三曲。

Ezekiel Saw de Wheel (エゼキエル、神の栄光を見たり)

「空の唯中、神の大いなるみ徴しの現われるのをエゼキエル(旧約聖書の予言者)は見た」と神の栄光を讃え信仰の喜びを歌います。

Ole Arks a-Moverin' (方舟揺れるよ)

「大洪水が次第に引いて、今方舟は懐しい故郷の方へと急ぐ。ごらん兄弟達のあの輝かしい顔を。」有名なノアの方舟の故事。

Let My People Go (わが民を救え)

「モーセよ、ゆきてエジプトの王に告げよ、虐げられしわが民を放てと。モーセよ、今悩める我が民を疾く救い出だせ。美しいカナンの地へイスラエルの民を。」神の命令が信仰の人モーセに聞えて来ます。



慶応義塾ワグネル・ソサイエティー

ワグネルが創立されたのは明治三十三年であり今日で五十三年になる声楽部が最初の試みとして「ドナウ河の漣」の一節に、新作の歌詞をつけたのである。それが明治三十五年五月であつた。

明治三十九年ワグネル最大の功勞者、大塚淳先生を指導者に頂いた。明治四十一、二年には遠く満洲にまで演奏旅行に行つてゐる。大正年間にワグネルの活動はその頂点に達し外国よりの演奏者の来遊と相俟つて楽壇上に大きな地位を占むるに至つた。大正の末、橋本國彦氏、木下保氏が来られ御指導下さつた。この頃より昭和初年にかけては正に黄金時代であつた。戦の渦中に捲きこまれる頃に至つても定期演奏会は欠かさずに行われ終戦後も昭和二十一年十二月帝劇に於いて催おした。

曲 目 解 説

◎ ロ シ ャ 民 謡 集

ステンカ・ラーズイン

ヴォルガの生んだ代表的民謡。変化に富んだ大胆な編曲は、M. McMillan. に依る。

緋色のサラファン

嫁入り近い娘にサラファンを縫いながら、遠い昔の思い出を語る母の言葉。編曲 竹村卓二氏。

カチユーシヤ

『祭に舞う乙女カチユーシヤ。酒をくみ交す男子達の瞳は燃える。』スラヴ人の情熱的舞調。

コサツクの子守唄

勇武を以て聞えたコサツクの間に伝わる暗く重い短調の旋律編曲 平山正夫氏。

1. De Sandman

Protheroe 作曲の子守歌、Sandman (砂人)は睡りの精でむずかる子供の目に砂を入れてねむらせるという言伝えに取材している。

2. Erie Canal

イリー運河に働く労働者が舟を引くロバの働きに合わせて歌う労働歌。

3. High Barbary

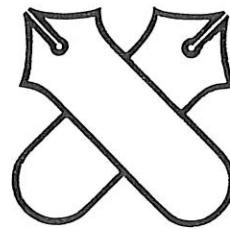
歌詩はバーバリー水域を荒し廻る海賊と英米海軍との死闘を描いた叙事詩 Arthur Hall 編曲。

4. From Boston Harbor

米国東海岸を航行する水夫の舟唄で歌詩は身勝手な船長を歌い込んだコミカルなもの。

5. I've got Six Pence

『六ペンスありやあ大したものだ。二ペンス費つて、二ペンス貸して、残る二ペンス、ワイフに送ろう』英国空軍の兵士が給料日の楽しさを歌う。



同志社グリー・クラブ

初夏薫る本年六月同志社グリー・クラブは、輝かしき創立五十周年を迎えた。この半世紀に亙る長い歴史は校祖新島襄先生のキリスト教主義と国際精神を背景とした人格教育を目指す同志社学園の中にあつて、グリー・メンバー相互のメンタル・ハーモニーとカレッジライフの向上に努めると共に宗教曲に生き、各時代のグリー・メンのこよなき愛情と不断の努力により、グリー・クラブの伝統と歴史は実を結んだのである。そしてその演奏が常時に日本宗教音楽の最高と評されるのも一に終始一貫してキリスト教に導かれたが為である。

明治三十七年にグリー・クラブが発足して以来、演奏会、放送演奏旅行と赫々たる活躍を示し、その足跡は日本全土はもとより沖縄、朝鮮、満洲、支那にまで及び本邦に於ける最古の、又最も真摯な合唱団として常に先駆を務め、殊に合唱音楽の発祥地たる関西にあつて輝かしき業績を残している。

曲 目 解 説

● Sacrum Convivium

聖霊降臨日の次の木曜、主イエスの聖き御体の祝日から八日間、天主公会の夕の祈りに際して聖処女マリアの讚美(ルカ伝第一章四十六節以下)に添うて歌われるもの。

歌詩はラテン語、各声部の自由な動きと美しいハーモニーをもつ曲。

● Blessed is he that readeth

主の御旨の内にあるものは幸いなるかな。主云い給う『汝の罪、深紅の如くなれど雪の如く清めらるべし』と。それ神はその独り子を賜うほどに世を愛し給えり。すべて彼を信ずる者の亡びずして永遠の命を得んためなり。(ヨハネ伝第三章十六節)

● 主の祈り

作曲者ディミトリ・ステパノヴィッチ・ボルトニアンスキー(1752—1825)は数多くの無伴奏合唱聖歌を書き、ロシア国教音楽の新しい基礎をなしたと言われる。

主の祈りはその代表作であり、民族的な香りをただよわせている。

● Let us break bread together

パンをさきブドウ酒を飲み、共に手を取り合つて朝日に向いてぬかずく我を憐み給え、聖餐式に臨む黒人達の清純な祈り。

● Die Beredsamkeit

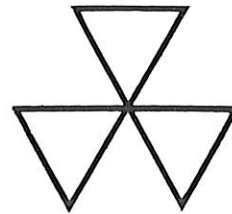
「水は人をだまらせてしまう。魚を見てごらん、魚はちつともおしやべりをしない。だがライン酒だとすぐ我々はおしやべりになつてドンチャンさわぎをはじめると言う。

大意の最後に「しかし水ではねえ……」とだまつて終るのが面白い。

J. Haydon 晩年の作、各声部に軽妙な動きを与えたユーモラスな大曲。

● To Joy

「天上に在る乙女よ、吾が喜び。汝の微笑みに月は輝き、心はおどる。讚美の歌に声を合わせて汝を待ち受けん。」歓喜に満ち湧れ男声合唱の力強さをこの上なく發揮させた曲。



關西學院グリー・クラブ

明治三十二年、我が国最古のグリー・クラブが原田の森に呱呱の声を上げて以来五十三年、我が国合唱界に古い伝統と歴史を持ち続けている。

誕生当初には山田耕筰先輩等活躍され、当時の事は氏の著作「若き日の狂想曲」に書かれてある。その後津川圭一先輩、由木康先輩等が一つの黄金時代を作られた。原田の森より上ヶ原台地に居を移した頃、作曲家大沢寿人先輩が出られ、昭和八年には林雄一郎先輩の棒が日比谷に孤を描き、ここに八、九、十年三年連続全国一の偉業をなし、空前の黄金時代が記録された軍靴の音が上ヶ原にも響き、部員も学業半ばにして次々に学院を離れて行つたがその間も練習は一度も絶えることなく続けられた。国敗れ平和が再び訪れ、いち早く学院に帰つた部員が部の再建に努力し、昭和二十三年第一回全国コンクールより回を重ねること六度、全国制覇の栄冠を持続している。

現在メンバーは約百名、常に学生団体としてたがいに切磋琢磨し、メンタルハーモニーをモットーとして、絶えず技術の向上を図り、精進を重ねている。

曲 目 解 説

◎ 日本合唱曲集

山の便り

山は明け候、日が出候。遠い峯々光り候。萬年雪くだいて
チョコレートまぜて 朝餉のまへに喰べて候
風は風ぎ候 暑く候。登山囊おろして憩み候。お花畠の
五彩の夢は 遙か都に通ひ候。
月の夜に候。更けて候。ほろと雷鳥も鳴きて候。
山の怪異を 語る案内者の 顔が篝火に映えて候。
月の夜に候。更けて候。

百合は咲いている

濤のしぶきの とまかぬところ 濤のしぶきを見おろしながら 百合が咲いてる 真白の百合が。
濤のしぶきは とまかぬけれど 崖はしほかぜ
明け暮れ荒れて 百合をなぶるよ 真白の百合を。
濤のしぶきを見おろしながら 風はなぶると
朝日がうれし 百合は咲いてる 真白の百合は。

夕やけの歌

夕やけこやけ	まがだの池の
さんしよの魚は	きらきら光る
びいどろのふらすこ	ちんだの酒は
きらきら光る	きらきら光る
鐘がなる	鐘がなる
寺の御堂の	十字の鐘は
きらきら光る	きらきら光る

